

|                |   |          |                                 |           |                        |
|----------------|---|----------|---------------------------------|-----------|------------------------|
| 学校<br>教育<br>目標 | 「なかまとまちと つながりながら かがやく ヒガシナの子」<br>○自ら課題を見つけ、主体的に考え、学び合う力を育てます。(知)<br>○互いを認め大切にして、豊かな人間関係を築く力を育てます。(徳)<br>○人と関わりながら、積極的に体を動かし、心身共に健やかにたくましく生きる力を育てます。(体)<br>○地域や人と進んで関わり、地域とつながろうとする態度を育てます。(公)<br>○学んだことを生活の中で生かし、様々な社会の変化に対応できる力を育てます。(開) |          |                                 |           |                        |
|                | 学校概要  | 創立 36 周年 | 学校長 菅谷 泰尚                       | 副校長 松本 友美 | 2 学期制 一般学級：18 個別支援学級：3 |
|                | 児童生徒数：  | 505 人    | 主な関係校： 平戸中学校・平戸小学校・平戸台小学校・品濃小学校 |           |                        |

|                                     |                                       |  |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 教育課程全体で<br>育成を目指す資質・能力              | 平戸中<br>ブロック                           | 小中一貫教育推進ブロックにおける<br>育成を目指す資質・能力を踏まえた<br>「9年間で育てる子ども像」と具体的取組  |
| コミュニケーション能力<br>問題発見・解決能力<br>自ら行動する力 | 平戸中学校<br>平戸小学校<br>平戸台小学<br>校<br>品濃小学校 | 自ら学び、互いの違いを認め、思いやりをもち、地域や社会のつながりを大切にする子ども<br>・小中合同授業会において、主体性をもって学び合えるための手立てについての研究。<br>・児童生徒交流における授業体験や部活動体験による中学校との交流及び進学への意欲付け。 |

|                |  |
|----------------|--|
| 中期<br>取組<br>目標 | ○主体的・対話的で深い学びを目指す中で、児童自らが問題を発見し、解決する能力を育て、その解決に向かって行動する力を育てます。<br>・1年目は、一人一台タブレット端末等も活用しながら、主体的に学習に取り組む力を育てます。<br>・2年目は、対話的な学びを充実させる中で、児童自らが問題を発見し、解決する能力を育てます。<br>・3年目は、主体的・対話的で深い学びの中で、児童自らが課題解決のために行動する力を育てます。<br>○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。<br>・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。 |
|----------------|--|

| 重点取組分野                        | 具体的取組  |
|-------------------------------|--|
| 知<br>GIGAスクール構<br>想<br>授業改善   | ①GIGAスクール構想の具現化を目指し、一人一台のタブレット端末を活用した授業づくりを行う。②重点研の研究主題を「豊かにかかわりあい、よりよく生きようとする子どもの育成」、副主題を「自ら問題を発見し、主体的・対話的に解決していく深い学びを目指す」と設定し、友達と学び合いながら、対話的に問題解決をしていく力を育成する。③教師主導での課題や問題の提示、解決を促していく授業から、児童自らが問題を発見し、解決方法を考えていく授業への転換を図る。   |
| 徳<br>豊かな心                     | ①進んであいさつする子どもを育てるために、学級・学年を単位とし、子どもたち自ら考え工夫したあいさつ運動に取り組む。②学年・学級目標を活用し、自分自身の行動を振り返り、よりよい学校生活を目指していく。③道徳科を軸として、自分自身を見つめる場を日常的に設け、自他のよさを認め合える子どもを育てる。   |
| 体<br>健やかな体                    | ①児童が楽しく主体的に体を動かせる授業を実践できるように、教員の指導力向上を図るための研修を行う。②健康委員会と体育委員会を中心に体力向上や運動をする楽しさを感じることが出来る活動を企画する。③給食週間や食育ワーク等を活用した指導を行い、食育への興味関心を高める。   |
| 公<br>開<br>自分づくり教育<br>(キャリア教育) | ①『横浜の時間』を活用し、様々な人とかかわり体験を通して、色々な人の考え方にふれ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。②『自分づくりパスポート』を活用し、年度初めに立てた個人の目標に対して、年度末に自分の成長を振り返り、子ども自身が変容や成長を自己評価できるようにする。   |
| 児童指導                          | ①日常的な児童指導の態度と連携力を高め、児童アンケートやYPAアセスメントの分析と共に、未然防止・早期発見・早期解決・再発防止の対応を全職員共通理解のもと、組織的に行っていく。<br>②日々の指導に加え防犯教室やネット教室などの啓発研修を通して、家庭と協力しながら児童の規範意識を高められるようにする。<br>③不登校や登校しぶりの児童が安心して登校できるよう、学校カウンセラーやSSWと連携しながら、登校に向けた支援や児童の不安を取り除くための心のケアを行う。<br>④学校の約束など実態に合わせて話し合い、見直していく。 |
| 人材育成・<br>組織運営(働き方)            | ①各種研修会への積極的な参加や校内研修、校内OJTを通して、教師力の向上を図る。<br>②教務会を核とし、一人ひとりの声を大切にしながら、組織的な学校運営を行う。<br>③時間外勤務削減の意識をもち、効率の良い働き方を職員で共有しながら働き方改革を進めていく。   |
| 特別支援教育                        | ①発達についての理解・指導法の研修や児童の情報共有を行っていく。特別支援教育支援員と連携しながら支援内容の改善を行えるようにする。②支援ニーズの把握のために個人面談や定期的な情報共有を充実させながら、家庭との連携を深めていく。また、センター的機能の活用やコンサルテーションの定期的な実施等、専門機関との連携を充実させていく。③特別支援教育について、本校の取組を保護者に知らせ、理解してもらうようにする。<br>④一般級と特別支援学級の連携強化のため、日常的に打ち合わせを行う。                         |
| いじめへの対応                       | ①どんなことがいじめにつながるのか、日々の児童指導や携帯電話教室などを通して具体的に伝え、児童自身で善悪の判断をして行動できるよう力を育成する。②1月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、小さな案件でも情報共有して未然防止、早期解決につなげたり、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努めたりする。③児童アンケートの結果の分析や、日常生活の中で「いじめ」を察知する態度を上げ、迅速な対応ができるように、研修の充実と職員間や専門機関との連携を強化していく。                           |
| 地域学校協働活動                      | ①地域学校協働本部と連携し、地域の力を活用しながら教育活動を行う機会を多くもてるようにする。<br>②児童の様子や学校の取組を保護者や地域の方々理解していただけるよう、学校HPや学校だより等でこまめに情報を発信を行っていく。   |